

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度（令和2年度）	科目名	情報系資格対策講座3	
科目基礎情報					
開設学科	AIシステム科	コース名	一	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	60時間
単位数	4単位	開講時間		授業形態	講義
教科書/教材	資料を配布する				
担当教員情報					
担当教員			実務経験の有無・職種		
学習目的					
基本情報技術者試験はIPAが主催する国家資格の一つであり、高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能をもち、実践的な活用能力を身に付けたことを証明する資格である。本資格はIT業界で開発者として働いていくために最低限必要とされている資格であり、遅くとも入社後3年目までには取得を推奨していることが多い。 本講座では基本情報技術者試験の午前試験免除制度に合格していることを前提とし、午後試験(150分)が合格できるように対策を行っていく。					
到達目標					
基本情報技術者試験のテクノロジ分野(基礎理論、アルゴリズムとプログラミング、コンピュータ構成要素、システム構成要素、ソフトウェア、ハードウェア、ヒューマンインタフェース、マルチメディア、データベース、ネットワーク、セキュリティ、システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術)、マネジメント分野(プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査)、ストラテジ分野(システム戦略、システム企画、経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ、企業活動、法務)のうち過去に出題された問題を重点的に理解する。					
教育方法等					
授業概要	午後試験について過去問を解き、見直しを行った上で解説を行っていく。早く過去問を解き終わった学生に対しては適宜質問を受け付け、個別に解説を行うことで全学生が効率的な学習を進められるように実施していく。				
注意点	過去問に対して学生が適当に解答をしてしまうと誤答者の多い問題が適切に選び出せず、解説の効果が薄い事態に陥ってしまうため、学生が一生懸命に過去問に取り組むことを最重要視している。また、社会への移行を前提とした受講マナーで参加し、講義中の私語や受講態度などには厳しく対応する。（詳しくは初回の講義で説明する。）理由のない遅刻や欠席は認めない。コンピュータテクノロジーで利用した教科書を忘れずに持参すること。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受講することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	過去問の点数の増減を基に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	50%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回） 1回（4）時間 ※45分を1時間とする					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ガイダンス		基本情報技術者試験の午前免除資格の必要性、今後の進め方を理解する		
2回	過去問演習と演習の解説(1)		GCPの環境に依存した状況で、機械学習のアルゴリズムの実装を行う。TensorFlowの実行環境を行う		
3回	過去問演習と演習の解説(2)		GCPの環境に依存した状況で、機械学習のアルゴリズムの実装を行う。TensorFlowの実行環境を行う		
4回	過去問演習と演習の解説(3)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
5回	過去問演習と演習の解説(4)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
6回	過去問演習と演習の解説(5)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
7回	過去問演習と演習の解説(6)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
8回	過去問演習と演習の解説(7)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
9回	過去問演習と演習の解説(8)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
10回	過去問演習と演習の解説(9)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
11回	過去問演習と演習の解説(10)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
12回	過去問演習と演習の解説(11)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
13回	過去問演習と演習の解説(12)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
14回	過去問演習と演習の解説(13)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		
15回	過去問演習と演習の解説(14)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる		